

I 研究開発の概要

I 研究開発の概要

令和2年度 研究開発実施計画書

1 指定校名・類型

学校名 神奈川県立山北高等学校
学校長名 藤田 正樹
類型 地域魅力化型

2 研究開発名 未病・防災～高齢者比率4割の町で高校生が挑む少子高齢化

3 研究開発の概要

教育課程の中心に総合的な探究の時間を据え、地域課題に係る問題解決学習に取り組む。探究の手法を学び、コンソーシアムの協力を得ながら地域課題を探究し、検討した課題解決方法を自治体に提案、実現を目指すことにより、地域人材の育成を図る。
また、学校設定教科・科目を設置し、外部機関との連携を図る教育を展開する。

4 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用

- ア 学校設定教科・科目を開設している
 イ 教育課程の特例の活用している

5 事業の実施期間

契約日～ 令和3年3月31日

6 令和2年度の研究開発実施計画

- ① 探究活動を通して、課題を発見、設定し、解決する力を育成する。
- 各自が自らできることを考えPBLの核となる「自分事としての課題設定」ができるようにファシリテートしていく。
 - ・ 職員研修会の実施。（2回の研究授業）
 - ・ 外部研修会や本事業指定校が実施する研究発表会への職員及び生徒の派遣。
 - 1学年最後・2学年当初に生徒が挙げた「マイプロジェクト」について、主体的、協働的に探究プロセスを積み重ねていく中で、実現可能な解決策を具現化していく。
 - ・ 課題設定の適正審査、生徒発表の機会の拡大。
 - ・ 町や町議会関係者等をはじめとして県内外から関係者を招き、高校生が挑んだ少子高齢化対策の政策提案発表会を開催。
- ② コンソーシアムとの協働により、地域の活性化や町の課題解決につながる取組を生徒に意識させ、活動できるよう指導する。
- コンソーシアムの拡大と内容の充実を図る。（2回のコンソーシアム連絡会議）

- ・ 協力団体と連携したコンソーシアムの取組の組織化。
 - ・ インターンシップの場面などで活用する。
- 学習指導計画立案の段階から協働を進め、地域課題解決に向けた地域との一体的な取組をより一層進める。
- ・ 小中学校等との連携。
 - ・ カリキュラム開発等専門家との協働によるカリキュラム開発。「教科横断的な授業展開計画表」の作成と実践。
 - ・ 地域協働学習実施支援員の一層の活用。
- 生徒が学習体験を自分事とし、地域社会へどのように還元していくかなど実際的な活用を前提に思考・実践できるようにする。
- ・ 地域人材の講演会の開催、フィールドワークの実施。
 - ・ アウトプットの力を伸ばすために発表機会の増加。
 - ・ 各自のマイプロジェクトの見直し。
- ③ 学校設定科目「未病」「地域防災」「山北」の系統的な結び付きにより育成できる生徒の力を検証する。
- 「未病」「地域防災」「山北」の学習に際して、各教科・科目における学習との関連を踏まえたものとするとともに、これらの学習成果を「未来探究」における探究的活動に結び付け、教科横断的な学習活動を展開する。
- 前年度に身に付けた探究的な活動を各教科・科目においても展開し、深い学びにつながる学習活動を推進する。
- ・ 学習支援G主導で、全校的に教科横断的な指導計画を立案。
- 学習活動や連携の取組を体系的に整理する。
- ・ 連携推進Gと地域協働学習実施支援員で協働し、方向性を整理。

7 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
「総合的な探究の時間」の活用	山北高等学校	山北高等学校 校長 藤田正樹
コンソーシアムにおける研究開発	山北高等学校	山北高等学校 校長 藤田正樹
研究成果報告・事業成果の検証	山北高等学校	山北高等学校 校長 藤田正樹
「成果指標等の作成及び検証」	山北高等学校	山北高等学校 校長 藤田正樹
専門家等アドバイザーとの協働によるカリキュラム開発	山北高等学校	山北高等学校 校長 藤田正樹
運営指導委員会の開催による課題の整理と事業計画の作成	神奈川県教育委員会	高校教育企画室 川端 麻穂

運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
石田 浩二	山北町教育委員会 教育長	
羽入田 眞一	早稲田大学 教育・総合科学学術院教職大学院客員教授	
小村 俊平	岡山大学 学長特別補佐 ベネッセ教育総合研究所 主席研究員	

高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
山北町	町長 湯川 裕司
国立教育政策研究所教育政策・評価研究部	部長 渡辺 恵子
有限会社小田原ドライビングスクール	社長 秋山 実
株式会社ベネッセコーポレーション	営業本部長 吉野 隆弘
山北町観光協会	会長 佐藤 精一郎
山北町商工会	会長 松澤 大輔
J Aかながわ西湘山北支店	支店長 臼井 範雄
山北町都市農村交流活性化推進協議会	会長 山田 肇
松田ゆいスポーツクラブ	理事長 松下 朗大
南足柄みらい創りカレッジ	代表理事 樋口 邦史

カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	後藤 健夫	フリージャーナリスト	都度雇用
地域協働学習実施支援員	加藤 陽一郎	開成町教育委員会 社会教育指導員	都度雇用
地域協働学習実施支援員	高杉 光男	山北町 農業委員	都度雇用
地域協働学習実施支援員	藤原 浩	山北町都市農村活性化協議会事務局長	都度雇用
地域協働学習実施支援員	唐牛 彩花	山北町商工会経営支援担当職員	都度雇用

8 課題項目別実施期間

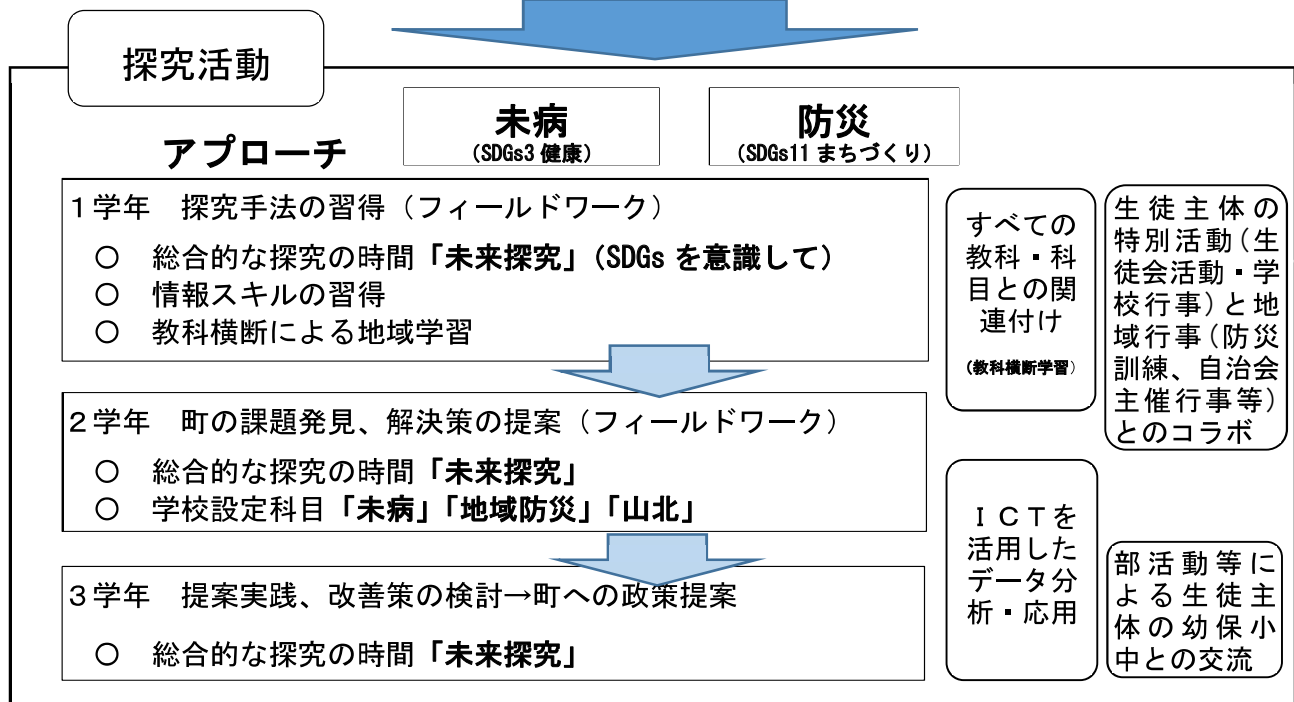
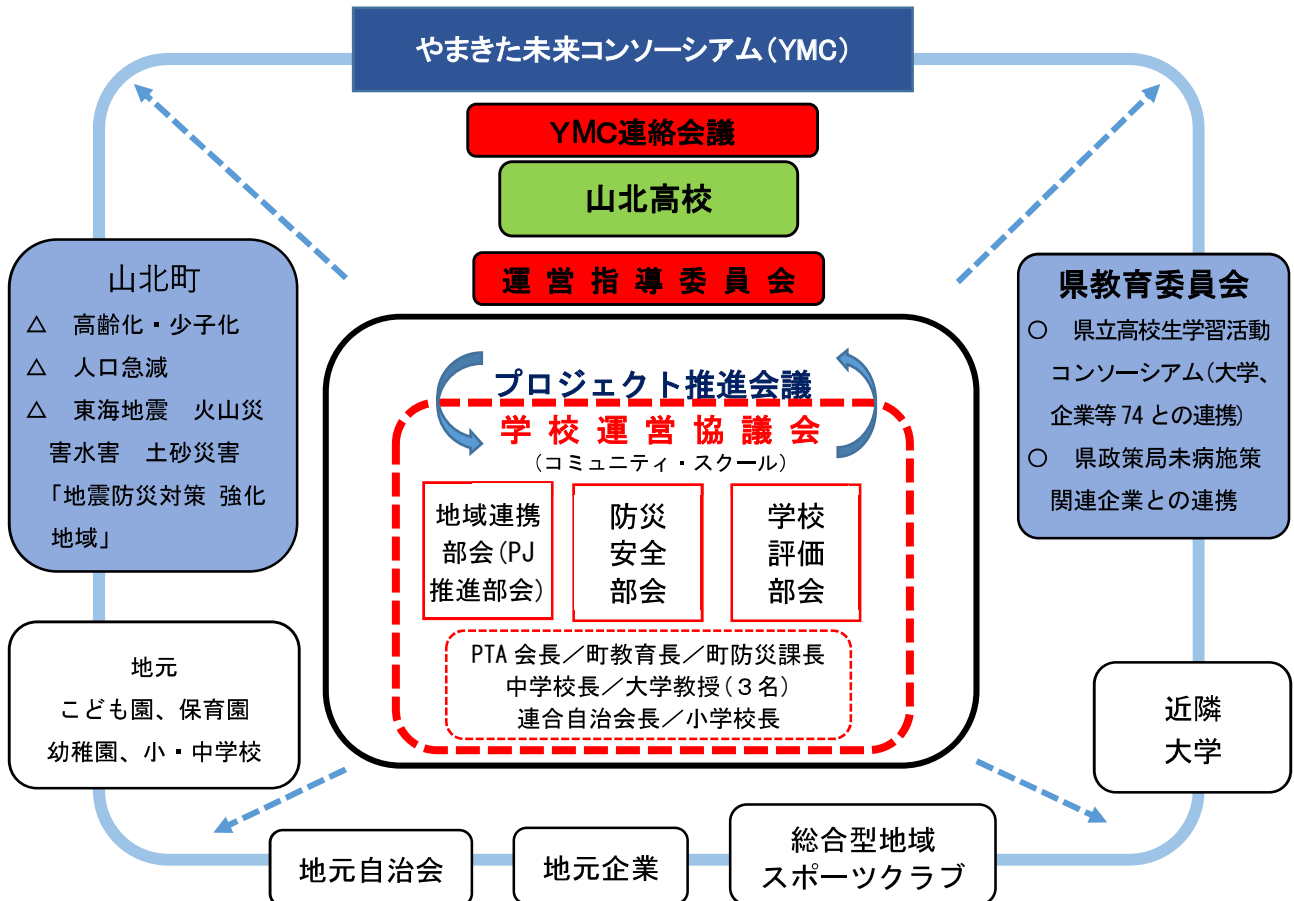
業務項目	実施期間（契約日 ～令和3年3月31日）										
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」の活用	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コンソーシアムにおける研究開発	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
研究成果報告・事業成果の検証	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				○	○	○	○	○	○	○	○
「成果指標等の作成及び検証」	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○	○	○						○	○	○
専門家等アドバイザーとの協働によるカリキュラム開発	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
運営指導委員会の開催による課題の整理と事業計画の作成	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
					○				○		

【研究開発概念図】

未病・防災～高齢者比率4割の町で高校生が挑む少子高齢化

【研究目標】

- 高齢者とともに住民皆が健康で安全・安心な町づくり
- コンソーシアムとコミュニティ・スクールを活用した地域人材育成のための教育課程（山北スタンダード）の開発 ⇒ 地域から社会を支え、問題解決に取り組む生徒の育成



神奈川県立山北高等学校 未病・防災～高校生が挑む「地域おこしプロジェクト」～

